

審査員講評

特選ならびに県広報協会賞、おめでとうございます。内容構成など総合的な評価の結果でした。レイアウトや色調の仕上がりが好感が持てるものでした。加えて、それぞれの特集も多面的に掘り下げようという意欲が見られます。シリーズの歴史物も地元への認識を深めるのに役立っていると思います。これからも、地域が直面しているさまざまな課題を取り上げ、市民へ問題提起していくような企画をさらに期待しています。



丸山 定巳さん
熊本大学名誉教授

広報紙の役割は、情報伝達に加えて文化のリード的役割があります。その点、広報きくちの特集「図書館」が良かったです。現場に足を運び、じっくりと取材をし、市民の求めるものを認識して、なおかつ一歩リードした方向を示してもいます。特集も、7月号「声を届ける」、8月号「図書館の可能性を探る」、9月号「5年に一度の統計調査」と変化に富んでいます。一つのことを深めて行く方法もありますが、変化しているのも市民は興味を持つでしょう。



本田 節子さん
歌人・作家

2月10日、熊日本社で表彰式が行われ、各市町村の広報担当者など約40人が参加しました。
式では、松岡繁光熊本日日新聞社事業局長が「広報は、住民との橋渡しになる。これからの市町村の広報づくりの指針となるかと思う」とあいさつ。松岡事業局長と熊本県知事公室広報課山口達人課長から、受賞市町村へ賞状や盾が贈られました。

また、審査員を代表して、丸山定巳審査員（熊本大学名誉教授）、本田節子審査員（歌人・作家）、松木良介審査員（グラフィックデザイナー）から講評がありました。丸山審査員は「地域社会の問題が広報紙に見えてこない。地域の話題を積極的に取り入れて、もう少し問題提起して共に考えていく」という企画があってもよいのではないか」と評価。本田審査員は、「独自の目線がないとだめ。思いが行間から立ち上ってくるような文章を書き、これは読みたい、読まなければと思わせる見出しが必要」という評価がありました。また、松木審査員は、「デザインやレイアウトのレベルが上がっている。表紙でまず次のページを開かせようか。開いたページでインパクトがあるか。興味を持たせることが大切」と全体を評価しました。

総合的な仕上がりはよいが 表現が硬いとの評価

広報コンクール結果

応募総数は、広報紙の部21点、広報写真の部53点。

広報紙(市部)

特選(県協会賞) 広報きくち

入選 広報うき

佳作 市政だより、広報みなまた、広報ひとよし

広報紙(町村部)

特選(熊日賞) 広報おおづ

入選 広報みふね

佳作 広報れいほく、広報ながす

広報写真の部

特選 広報ゆのまえ 「夏だ! プール開きだ!」

入選

・広報うき

「やった! 元気いっぱい舞台に咲いた笑顔 2010夏 発信Ⅲ」

・広報みふね 「最愛なる家族いつまでも」

・広報あさぎり

「おいしい! たのしい! そうめん流し GT研究会 親子林間学校開催」

佳作

・広報れいほく 「視線は火点へ」

・広報ながす 「まちの小さな音楽家たち」

・広報こうさ 「昔の道具を使って秋の収穫を楽しむ」

・広報みなみおぐに 「勇者たちの熱い夏」



熊本県広報コンクール市部で広報きくちが特選に選ばれました。さらに特選の中から選ばれる熊本県広報協会賞にも選ばれ、全国広報コンクールへ参加することが決定しました。同コンクールは、広報活動の活性化や広報紙編集技術の向上を図るため、県内市町村が発行する広報紙の中から優れた広報紙を選ぶものです。広報紙と広報写真の部があり、広報紙の部では企画・文章・写真・レイアウトなどの総合的な評価で選ばれます。

1月12日、最終審査が熊本日日新聞社で行われました。一次審査を通過した広報紙の中から、6人の審査員によって特選・入選・佳作が選ばれました。

上：8月号で特集した「図書館の可能性を探る」
下：9月号で取り上げた国勢調査のお知らせ
コンクールには、広報きくち7月号、8月号、9月号を出品。広報きくち7月号では選挙や音声ボランティアグループを特集。

第54回熊本県広報コンクール 広報きくちが県広報協会賞を受賞



菊池市の特選受賞は、合併前の旧菊池市・泗水町を合わせて平成になり6回目